

## 「新しいぶどう酒は新しい革袋に」

2015年05月25日

ルカによる福音書 5章33節～39節。人々はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」そこで、イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。」そして、イエスはたとえを話された。「だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。また、古いぶどう酒を飲めば、だれも新しいものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。」

洗礼者ヨハネは禁欲的で生真面目だったから、弟子たちの集団は張りつめた信仰生活をしていただろう。また、ファリサイ派の人々は律法を遵守する生活を誇りにしていた。彼らの群れは自分の罪を悲しみ、貧しい人々の苦しみを担う断食を、律法で規定された通りに守っていた。一方、主イエスと弟子たちは会食を楽しみ、笑いの絶えない群れだった。宗教ではおおむね、禁欲的で規則に従って真面目に生活することが神への熱心と評価される。人々は、主イエスになぜ、あなたの弟子たちは断食しないのか、陽気に振る舞う群れは「不謹慎だ」という非難を浴びせた。それに対し、主イエスは、今は花婿がいる宴席である、喜びの宴席では断食はしない、しかし花婿が奪い去られる時がくるが、その日には、断食をすると答えている。主イエスはご自分を花婿と言ひ、花婿のいる今は喜びの時であると、新しい時代の到来を告げている。そして、新しい時代の到来を二つのたとえで示している。織りたての布を古い服に継ぎ当てしない。収縮度が違うので、古い服は引き裂かれてしまう。新しいぶどう酒を古い皮袋には入れない。新しいぶどう酒が発酵して膨張し、古い皮袋は破れてしまう。そして「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れねばならない」、またぶどう酒は「古いものの方がよい」と言われた。

主イエスは、私が神から遣わされたことによって、生真面目な洗礼者ヨハネや形式的に律法を守るファリサイ派の人々が作りあげた宗教体制ではない、新しい時代が来たと語っている。旧い契約の時代は終わり、新しい契約の時代の到来の宣言である。律法に支配され、律法を行うことによって救われる信仰から、主イエスと共にいる喜びに向かって解放された「福音」を聞くことができるということである。

時代は新しくなっていない。自分自身も、周りの社会も、世界の情勢も人間の変わらぬ罪が生み出す狂おしいほどの悲惨の中にある。昔と今は変わっていない。どこに、神の愛と正義が見えるだろうか。

しかし、主イエスの十字架と復活によって、全ての罪が赦され、キリストの恵みに既に招き入れられている。花婿イエスがもたらした新しい時代の到来を信じる時、今がどんなに破れていようとも、否定的にではなく、喜びをもって、おおらかに肯定し、前を向いて生きることができる。全てを是認したキリストの恵みが現実となっている「福音（喜びのおとづれ）」が真実であるからである。